

校名：愛媛大学教育学部附属幼稚園

所在地：〒790-0855 愛媛県松山市持田町1丁目5番22号 電話番号：089-913-7857

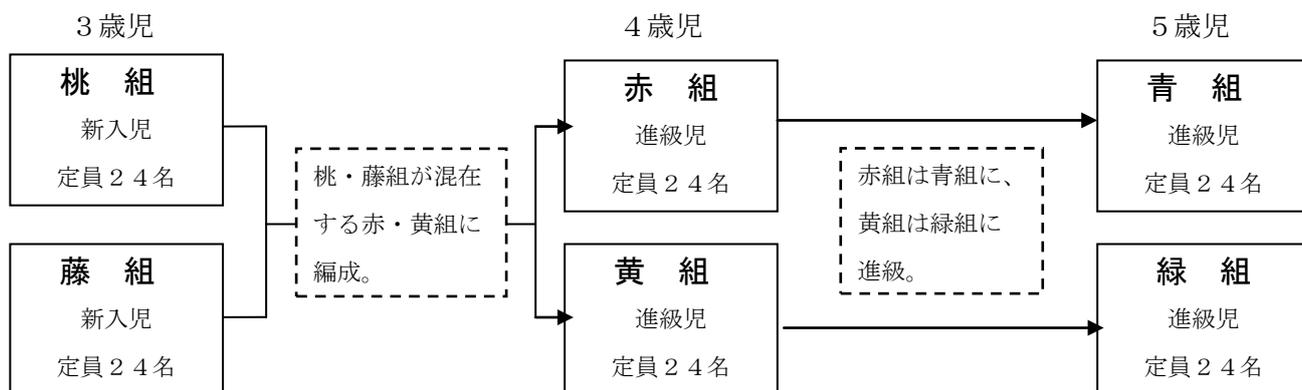
記載日：平成28年5月9日

記載者：川崎 ひとみ

記載者役職：副園長

校風、おおまかな特色について：

- 大学と附属学校園が「一つの学園」という認識が強い。
- 附属五校園（幼・小・中・特別支援・高校）の共通教育理念「未来を拓く人材の育成」のもと、「自分らしさを生かし、ともに生活を楽しむ幼児の育成」に取り組んでいる。
- 幼児の発達を研究的に見通すとともに、発達に応じた幼児の活動を保障する保育の在り方を地域に発信し続けている。
- 次世代の保育者を育成する場として、大学・学部と連携し、教育実習の他にも学生の教育実践力向上のための取組（幼稚園での大学授業、保育支援ボランティア、教育実習メンター、就職前実習等）を積極的に行っている。
- 「みんなで育てみんなで育つ」を合い言葉に、保護者の保育参画や大学教員による子育て講座等の様々な活動を通して、幼児と教師と保護者のよりよい関係性の中で保育を進めている。
- 平成25年度より、3歳児学級を増設し、完全3年保育を実施している。



本校の卒業生の活躍状況について：

- ① 追跡調査は行っていない。
- ② ほとんどの園児が連絡入学で附属小学校・中学校へ進級するので、かなりの割合で把握できている。情報は、園が持っている。
- ③ 附属五校園の共通教育理念のとおり、未来を拓く人間として確かな成長を遂げている。

本校勤務経験者の教員が公立学校・教育委員会などへ戻った後の活躍状況について：

- ① 追跡調査は行っていない。
- ② 活躍状況は把握できている。情報は、園が持っている。
- ③ 勤務経験者は、県内各地域で、生活科や総合的な学習の時間、幼保小連携教育推進の中心的役割を担っている。また、県が実施する各種研修会の講師や助言者として、地域の研修の活性化に貢献している。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

附属五校園 共通教育理念「**未来を拓く人材の育成**」を受け、「**自分らしさを生かし、ともに生活を楽しむ幼児の育成**」に取り組み、それらの成果を地域に発信しています。

好奇心をもって身近なものや自然と関わり、考えたり、作りだしたりしようとする幼児

自ら生み出す夢中になる遊び

草むらで目を凝らしてバッタを探す子どもたち。プールでは、「こっちから追うからそっちで捕まえて」と作戦を立ててアメンボ捕り。捕った後も、虫博士たちの探究は続きます。また、好奇心旺盛な子どもたちには、既製のおもちゃより、リサイクル素材が大人気。ペーパー芯や空き箱、ペットボトルなどが子どもたちの手にかかる、世界で一つのオリジナル品に大変身。本園では、こういった直接体験や試行錯誤ができる時空間を大切にしています。その過程で、幼児の創造力や思考力の芽が大きく伸びています。



バッタ捕まえた



手作りいかだ最高

憧れの気持ちをもって取り組み、自分の持ち味を発揮して、やり遂げようとする幼児

憧れを生む「夜のつどい」

いつもとひと味違うワクワクする夜の幼稚園。5歳児は、この日に向け、自分の持ち味を存分に発揮し、みんなが楽しめるお店やお化け屋敷を長い時間かけて準備します。準備中も3歳児や4歳児が遊びに来ます。5歳児のお店で楽しんだ3・4歳児「やってみたい」という思いが膨らみ、家庭やクラスでもお店屋さんが登場することになります。「夜のつどい」当日、大勢のお客さんを相手に大忙しの5歳児は、やり遂げた満足感でいっぱいです。



つれたかなあ



どれにしますか？

心を開いて自分の思いを表現し、
友達と協力し合おうとする幼児

みんなで相談、みんなで祝う誕生会

毎月、5歳児クラスでは誕生会の相談が行われます。

「出し物を三つしたいな」

「でも、あと四日しかないからできないよ」

「じゃあ、9月だから秋の歌と運動会に踊ったダンスにしよう」

「同じじゃつまらないから、劇にしようよ」

「でも、運動会のダンスだったら年少さんも踊れるよ」
安心して思いや考えを伝え、聞き合える場を保障することで、友達の気持ちや思いに気付いたり、新しいアイデアがひらめいたりします。

この「そうだん」による企画をもとに、誕生会当日は、幼児と教員、そこに誕生月の保護者も加わって、みんなで命の誕生を温かくお祝いします。



握手でおめでとう



みんなでお祝い

保護者も学んでいます。

大学の教員による 「子育てミニ講座」

「子育てミニ講座」の特徴

- ① 時間が取りにくい保護者が、気軽に参加できるように30分程度の講義、実習
- ② 愛媛大学教育学部附属幼稚園ならではの大学や附属学校の関係者が講師
- ③ 子育て中の保護者にとって参考になる有意義な話を提供

内 容 (平成27年度)

第1回 「海外のサイトに学ぶ、家庭で楽しむアートと科学遊び10選」

教育学部：深田 昭三 先生

第2回① 「今からできる食育を考えよう」 第2回② 「野菜を上手に食べよう」(実習)

農学部：垣原 登志子先生

第3回 「幼児期の運動遊びの大切さ」

教育学部：日野 克博 先生

第4回 「子育てに学ぶ」

附属小学校副校長：玉井 啓二 先生

第5回 「豊かな言葉の育ち」

教育学部長：三浦 和尚 先生

第6回 「金属を溶かして〇〇を作ろう」(実習) 附属幼稚園長：原田 義明 先生



親子で、だいこんをおいしいおやつに



「聞いて」「言わせて」「受け止めて」
子どもとの会話を楽しむ

地域において、現在、本校はどのような存在であると考えますか：

① 教員の専門性の向上

- 愛媛県が行う「支援の幅を広げる保育技術専門研修」「愛媛県幼稚園新規採用教員研修」などの講師として、実践につながる理論や実技等に関する研修を行っている。
- 所属する愛媛県国公立幼稚園・こども園教育研究協議会では、研修の推進役を担い、地域の幼稚園と協同しながら幼児教育の振興発展を図る取組を進めている。

② 幼児教育の先進的な取組を地域に発信

- 日常の保育にすぐに役立つことができる具体的な取組を冊子にまとめ、地域に発信している。

③ まつやまファミリー・サポート・センターとの連携による地域貢献

- 子どもの預かりを行う会員のフォローアップ講習会を本園で実施。職員が講師となり、楽しいおもちゃ作りや絵本の読み聞かせ方の実技をとおして、子どもたちとのコミュニケーションの取り方を伝え、安心して育児ができるよう援助している。



事例が豊富な冊子

附属学校の存在意義、本校の存在意義について：

- 教育学部幼児教育講座との密接な連携のもと、愛大教育改革促進経費事業「附属幼稚園における教育実習後の実践力育成プログラムの開発と評価」（平成26・27年度）に取り組んできたことを始め、科研費研究を含む大学教員の教育に関する研究に、継続的にフィールドを提供している。さらに、学生の卒業研究への協力も、年に3～4件程度行っている。
- 実践力のある幼稚園教諭育成のために質の高い教育実習を行っていることはもちろん、教員養成にかかわる授業の実施（新入生セミナーB、幼児理解の理論と方法、幼児教育実践論、健康の指導法、保育学、保育内容総論）、学生サポーターを始めとする地域連携実習の受け入れ、就職前実習の受け入れを行うなどにより、教育学部における質の高い教員養成の実現と切れ目のない実習体制の構築に大きく貢献している。
- 国の幼児教育の振興に必要な研究テーマを掲げて実践的な研究を深め、年に1回開催される愛媛教育研究大会（幼稚園・小学校の部）で、県内外に広く提案している。この研究大会には、幼・小合わせ毎年400人程度の参加があり、地域の幼稚園・保育所・こども園にとっては、先進的な保育実践を知り研修を深める上で、貴重な機会を提供している。